

平成 27 年度静岡大成高等学校 学校評価書

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	意見
① 基本的な生活習慣や規範意識の確立を図り、社会人として通用する生徒を育てる。(衣を正し・時を守り・場を清め・礼を尽くす)	社会や家庭、学校のルールやマナーを身に付けさせる。	・お互いが安全で心地よく生活するためのルールについて、生徒・家庭・教員それぞれが真摯に向き合い、信頼関係を築きながら共通理解を確立する。また、自らも社会や職場のルールを守る。	A	・校内生活にけるルールやマナー、公共の場での立ち居振る舞い等には、生徒自身の自覚が見られる。教員の呼びかけや家庭の協力が伝わっている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校3年生は、きちんとした服装や時間を守ることなど、社会人としての素養を身に着けるため、もう少し厳しく指導をお願いしたい。 ・ 挨拶はすべての行動の基本である。気持ちの良い挨拶ができれば、ロコモとなって本校の評判にもなる。今後も指導をよろしく願います。 ・ 昨年までは、服装に係る基準が女子にだけ厳しいとの指摘があったが、本年度は男子に対しても適切な指導がなされ、男子の服装が変わったとのことで、先生の努力に敬意を表する。 ・ 生活習慣や規範意識については、いろいろな学校から様々な生徒が集まってくることから、地道に繰り返し、諦めることのない指導をお願いしたい。 ・ ネット関連については、中学同様、学校として、使い方のルールを決め、保護者がそれを熟知するように説明する等の対策を講じてもらいたい。
	社会の一員であることを自覚させ挨拶や感謝の心を育てる。	・ 円滑な対人関係を確立するために挨拶の大切さや感謝の心を育てる。教員も率先垂範し生徒の実践に繋げる。	A	・ あいさつをする生徒は多い。さらに進んで気持ち良いあいさつができるようにしたい。	A	
	服装や頭髪を正しく整えさせる。	・ 月に1回の風紀検査を実施し、高校生としての正しい服装容儀についての認識を持たせ、日常的に指導をする	A	・ 検査があることで校内では一定の落ち着きはあるが、検査が無くても、校外でも服装等に気を配れるようにしたい。	A	
	身の回りの整理・整頓、校内美化に自主的に取り組ませる。	・ 身の回りの整理・整頓が学習への集中力に繋がることを理解させる。掃除や校内美化については、生徒に自主的に行動させることで感謝や奉仕の心を育てる。	B	・ 整理整頓と掃除は、できる生徒とできない生徒の差が見られる。また、自主的に行動できる生徒をさらに育てていきたい。	B	
	基本的な生活習慣の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規則正しい生活習慣を確立させ、遅刻・欠席を減らし、時間を守る習慣を身に付けさせる。 ・ 登校指導や頭髪服装指導、職員室窓口での対応をマナー等を通じて、挨拶・服装・言葉遣い等のマナーの向上に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的には、遅刻欠席は少なく良好である。時間を守ることも概ねできている。 ・ 頭髪は常に指導が必要である。また、正しい言葉遣いや敬語が自然に使えるにはまだ指導が必要である。 	A	
生徒の健康安全に留意し、危機管理体制を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全講話や自転車ステッカー指導、鍵かけ指導、交通安全キャンペーン等を通して、交通安全に関する意識の向上や公共交通機関でのマナーの向上に努める。 ・ 携帯電話の講習会を実施し、インターネットや LINE・SNSなどの危険性等について繰り返し指導をし、理解を深めさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車の違反は少なくないが、幸い大きな事故は無かった。 ・ スマホ安全教室、生徒部通信などでネットに関する指導はしているが、トラブルはなかなかなくなるならない。 	B		
② 授業を大切にし、授業力の向上を図り、確かな学力を持つ生徒を育てる。	基本的な学習習慣の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始業・終業の挨拶と時間の徹底や、机上の整理・整頓指導を行う。 ・ 朝読書・2Pノート・マナトレ・確認テストなど一貫した指導体制を心掛け、生徒の学力向上と学習習慣の定着に積極的に取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始業就業の正しいあいさつは徹底できていない。 ・ 生徒の取り組みと教員の指導に温度差があり、生徒にとって充実した内容にはなっていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の質の向上を図るためには、やはり各先生の授業力の向上も大切である。本校の先生も努力しているが、一部には、質問に対して座ったままで答えさせているとか、板書がスムーズでない先生もいる。研修や研究授業等で切磋琢磨をお願いしたい。 ・ iPad やプロジェクターを使った授業の準備は大変であろうが、生徒はすんなり入っていけると思うので、どんどん進めて行かれてはいいかでしょうか。 ・ 授業評価については、次年度にその反省を踏まえた授業が展開できるよう、適切な時期に実施していただきたい。
	教材研究や授業公開に積極的に取り組み、「授業力」の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ やる気を引き出す授業を工夫し、学力の伸びを感じることでできる生徒を育てる。 ・ 授業公開・研究授業に積極的に取り組み、指導力を養い、生徒が学ぶ楽しさを実感できる授業を心掛ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad やプロジェクターを使った授業の工夫も一部ではみられるが、さらに改善が必要である。 ・ 公開授業に保護者の参加が少なく、研究授業は最低限の回数をこなすのみとなっている。 	B	
	シラバスの充実に努め、授業内容や評価方法を常に検証し改善を図る。	・ 教科会で指導内容・指導方法・成績評価について検討し、シラバスに基づいた授業展開を目指す。	B	・ 上位者に高い評価がつく指導方法や評価方法の検討が必要である。	B	
	生徒による授業評価を真摯に受け止め、授業の改善に努める。	・ 評価から自分の授業を振り返り、課題を確認して改善のための努力をする。	B	・ 授業評価が年度末であるため、来年度に向けた改善となっている。時期の見直しが必要である。	B	
	教務内規の徹底と個に応じた指導を心掛ける。	・ 一人一人の学習状況をクラス担任と教科担任が常に情報を共有し合い、教務内規を念頭に置き指導にあたる。	A	・ 情報の共有はおおむねできており、担任のフォローによって救われている生徒もいる。	A	

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	意見
③進路意識の高揚を図り、進路目標の実現にきめ細やかな指導体制をとる。	第1学年は自己理解とともに将来を見通し進路意識の高揚を図る。 第2学年は目標達成のための学力の充実と共に職業観を養う。 第3学年は目標達成のために能力を最大限発揮させ進路実現・自己実現を図る。	・三年間の進路指導の流れを理解・熟知し、生徒の個性や適性を生かした進路指導を考える。 ・二年次以降の選択科目については一人一人の進路を確認し、適切なアドバイスに努める。 ・早い時期から外部の進路説明会やオープンキャンパス等への参加を促し、進路意識を育て、目標を持った学校生活を送らせる。 ・生徒・保護者との信頼を深めるために面接を繰り返し、進路決定に至るまで意志の疎通を十分図る	A	・3年間の進路指導を柱に、学年ごとの目標を設定し指導している。 ・6月と11月の科目の選択にあたって、進路指導がなされ、生徒の状況をある程度把握している。 ・高1の総合的な学習の時間で「進路学習」を実施し、早い時期から進路に対する意識づけをさせている。 ・経済的に大変な家庭も少なくない中で、進路選択に教員と生徒・保護者との考え方の違いが生じることがある。	A	・進路指導については、進学及び就職について補修や面接等を繰り返し実施しているとのことであり、今後ともよろしくお願ひしたい。 ・進路選択に当たり、進学に係る費用や奨学金の有り様について、保護者はもちろん、生徒にも理解させる機会が必要ではないか。
	進路の実現に向けて最大限のバックアップができる体制を整え、新鮮な情報や知識の習得に気を配る。	・進路に関する情報を積極的に収集し、時代に即した進路指導の研究に心掛ける。 ・小論文講座や補習に努めると共に、自主的に資格取得に取り組む姿勢を育てる。 ・進路指導に関する問題点は学年でよく話し合い、進路部と連携して指導にあたる	B	・進路部による情報収集を学年教員が共有し研究にあっている。 ・小論文講座、補習、検定に積極的に挑戦させている。 ・本校の特色である総合選択制が効果的に運用されるよう、学年で取り組んでいる。	B	・本校の特色である総合選択制については、本校を受験しようとする生徒、保護者にそのメリットを伝えきれていないところがあるのではないか。広報も含めて今一度総合選択制の有り様を検討してみたいかがであろうか。
④部活動・生徒会活動・学校行事の充実と積極的参加を促す。	部活動の活性化に努め、学校生活に潤いと活気を与える。	・部活動を通して、体力・技術及び精神力を向上させ、挨拶や言葉遣い、また礼儀作法を身に付けさせる指導を行う。	A	・高い実績のある部活は多くはないが、教育的に取り組んでいる。	A	・英語部や自然科学部を導入され、部活動の選択の幅を広げているところと理解している。顧問や場所の確保等難しい問題もあると思われるが、創意工夫して生徒の希望をできるだけ汲んでいけるようお願いする。
	豊かな学校生活を目指し、行事や生徒会活動への積極的な参加を促し、クラスや学年の団結力や自治意識の向上を図る。	・行事や活動の意義を理解させ、主体的に参加できる働きかけをする。また、クラスや学年の一員としての役割を果たす指導をする。	A	・行事には生徒各自が積極的に取り組んでいる。準備や運営に携わる係の生徒も、一生懸命役目を果たしている。	A	
⑤信頼される学校づくりをめざし、教育の特色化・魅力化を推進し、広報活動を利用して積極的に外部に発信する。	ホームページの充実を図り生徒の活躍する姿を発信し常に新鮮な情報を外部に提供する。	・ホームページを定期的に更新するための情報を積極的に提供する。	B	・今年度は、ホームページの刷新に取り掛かり、来年度に向けてさらにより良いスタイルになるよう日々努力している。直接かかわる教員は決まっているため評価は低くなった。	A	・HPに同窓会専用のページが新設され、また、中学同様、こちらも時宜に見合って頻繁にリニューアルしているということであり、個々の教員がHPと接触する機会が少ないとはいえ、学校としては十分HPの機能を果たしている。 ・教員全員広報部員として協力し、チラシを各学校ごとにクラス分けして送付した結果、説明会参加者が大幅増となったとのこと、今後とも先生方のご努力を期待する。
	PTA や同窓会・桜凜会との相互理解を深め、連携して学校の発展に努める。	・PTA 行事や同窓会などには積極的に参加し、生徒の具体的な情報や活躍する姿を発信する。 ・保護者同士の相互理解を深めるため、クラス懇談の工夫をし、更なる連携に努める。	B	・教員の参加者はまだまだ少なく、意識が低い。 ・研修会で、クラス懇談会の意義や方法などを説明し、工夫している担任もいる。	B	
	本校の教育の特色や魅力に繋がる企画を進め、「少子化に負けない学校づくり」に努める。	・学校説明会・入試説明会などに積極的に係り全員参加の広報活動・入試活動を心掛ける。 ・地域交流を進め、地域の住民と共に存在する学校づくりを目指す。	B	・「全員広報」をうたい、教職員が一丸となって広報活動を行うよう進めている。 ・鷹匠自治会の方々を招いて、パソコン講座や歴史講座などを開き、地域交流を進めている。	B	
⑥安全・健康・道徳・防災教育を通して「命の大切さ」を育てる。	人権・道徳・安心安全教育を推進する。	・在り方・生き方教育や自他の命を大切にすする心、物を大切にすする心をあらゆる場面を通して指導する。 ・いじめ等調査を継続的に実施し、いじめゼロを目指す。 ・防災訓練を年3回実施し、危機管理能力を高める。	A	・講演会を通し、恵まれない人に目を向ける教育を行った。 ・いじめアンケートを実施し、問題には即対応した。 ・ほぼ予定時間内に避難できた。	A	・本年度、カウンセリングを受ける生徒が相対的に増加しているようであるが、原因を十分分析し、対応方よろしくお願ひする。
	心身の健康の保持増進のための教育を推進する。	・朝食指導や心の健康指導に積極的に取り組み、必要ならば教育相談室の利用を促す。	B	・カウンセリングを受ける生徒は多く、順番待ちとなっている。	B	

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった